

# FAI スポーティングコード

## セクション 4 – 航空模型

### ボリューム F5

#### 無線操縦電動モーターグライダー

2026年版  
2026年1月1日発効

翻訳：西村 悠  
作成日：2026年3月  
原文: SC4\_volume\_CIAM\_F5\_Electric\_2026\_0.pdf

注：本書は参考訳として非公式に日本語へ翻訳したものです。正式なルールの確認にあたっては、FAIの原文を参照してください。

## このボリュームに含まれるもの：

F5B - RC電動マルチタスクグライダー  
F5J - RC電動サーマル滞空グライダー  
F5A - RC電動GPSグライダー（暫定）  
F5E - RCソーラーパワードモーターグライダー（暫定）  
F5F - RC 6セル電動モーターグライダー（暫定）  
F5G - RC電動ビッグモーターグライダー（暫定）  
F5K - 電動モーターとAMRT付きマルチタスク競技RCサーマル滞空グライダー（暫定）  
F5L - 電動モーターとAMRT付き無線操縦サーマルグライダーRES（暫定）  
附属書 5E - ワールドカップ競技会の規則

Ver. 1.0, 2026-01-01



[FAI定款および細則へのリンク](#)

# 目次

本書『競技規則 無線操縦電動モーターグライダー 2026年版』は、2026年1月1日に発効する。2026年版は、欄外に縦線のある段落において2025年版と異なる。

5.5. カテゴリーF5 - 電動モーターグライダー .....	9
5.5.1 一般規則 .....	9
5.5.1.1 電動モーターグライダーの定義 .....	9
5.5.1.2 模型航空機の製作者 .....	9
5.5.1.3 RC電動モーターグライダーF5の一般特性 .....	9
5.5.1.4 エネルギーリミッター/ロガー .....	9
5.5.1.5 リミッターおよびロガー検査の手順 .....	9
5.5.1.6 模型航空機の数 .....	10
5.5.1.7 競技者およびヘルパー .....	10
5.5.2 競技規則 .....	10
5.5.2.1 公式飛行の定義 .....	10
5.5.2.2 飛行の取消しおよび失格 .....	10
5.5.2.3 競技会の運営 .....	10
5.5.2.4 スタートの運営 .....	11
5.5.2.5 エネルギーリミッターの処理 .....	11
5.5.2.6 審判 .....	11
5.5.3 クラスF5A - RC電動GPSモーターグライダー（暫定規則） .....	12
5.5.3.1 定義 .....	12
5.5.3.2 エネルギー管理 .....	12
5.5.3.3 コース配置 .....	12
5.5.3.4 発航 .....	12
5.5.3.5 距離課題 .....	12
5.5.3.6 着陸タスク .....	13
5.5.3.7 競技会運営 .....	13
5.5.3.8 得点 .....	13
5.5.4 クラスF5B - RC電動マルチタスクグライダー .....	14
5.5.4.1 定義 .....	14
5.5.4.2 コース配置および運営 .....	15
5.5.4.3 F5B競技会場レイアウト .....	15
5.5.4.4 得点 .....	15
5.5.4.5 発航 .....	15
5.5.4.6 距離課題 .....	16
5.5.4.7 滞空および着陸タスク .....	16
5.5.4.8 会場 .....	17
5.5.7 F5E - RCソーラーパワードモーターグライダー（暫定） .....	18
5.5.7.1 定義 .....	18
5.5.7.2 コース配置および運営 .....	18
5.5.7.3 得点 .....	19

5.5.8 F5F - RC 6セル電動モーターグライダー (暫定)	20
5.5.8.1 模型航空機仕様	20
5.5.9 F5G - RC電動ビッグモーターグライダー (暫定)	21
5.5.9.1 定義	21
5.5.9.2 模型航空機仕様	21
5.5.11 クラスF5J - RC電動サーマル滞空グライダー	22
5.5.11.1 一般規則	22
5.5.11.2 競技者およびヘルパー	23
5.5.11.3 飛行場	23
5.5.11.4 安全規則	24
5.5.11.5 競技飛行	24
5.5.11.6 リフライト	24
5.5.11.7 飛行の取消しおよび／または失格	25
5.5.11.8 飛行の運営	25
5.5.11.9 送信機の管理	26
5.5.11.10 発航	26
5.5.11.11 着陸	26
5.5.11.12 得点	26
5.5.11.13 最終順位	27
5.5.11.14 参考情報	28
5.5.10 F5K - 電動モーターおよび高度計／モーター作動タイマー(AMRT)付きマルチタスク競技用RCサーマル滞空グライダー (暫定)	29
5.5.10.1 F5K紹介	29
5.5.10.2 課題概要	29
5.5.10.3 公称発航高度 (NLH)	30
5.5.10.4 NLHに関連する発航ポイント	31
5.5.10.5 発航および飛行時間開始	31
5.5.10.7 発航高度 - 高度計／モーター作動タイマー (AMRT)	31
5.5.10.8 ヘルパー／計時員	32
5.5.10.9 模型グライダーの定義	32
5.5.10.10 模型航空機の数	32
5.5.10.11 発航および着陸エリア (パイロットエリア)	32
5.5.10.12 罰則概要	33
5.5.10.13 リフライト	33
5.5.10.14 準備時間	33
5.5.10.16 最終得点	34
5.5.10.17 同点の解決	34
5.5.10.18 フライオフ	34
5.5.10.19 チーム順位	34
5.5.12 クラスF5L - 電動モーターおよびAMRT付き無線操縦サーマルグライダー-RES (暫定)	35
5.5.12.1 一般規則	35
5.5.12.2 無線操縦グライダーの定義	35

5.5.12.3 無線操縦サーマルグライダーF5Lの模型仕様 .....	35
5.5.12.3.1 模型は主として木製部品で製作される .....	35
5.5.12.3.2 使用が認められないもの .....	35
5.5.12.4 競技の説明 .....	36
5.5.12.5 飛行場 .....	36
5.5.12.6 中断 .....	36
5.5.12.7 発航 .....	36
5.5.12.8 競技飛行 .....	37
5.5.12.9 リフライト .....	37
5.5.12.10 着陸 .....	37
5.5.12.12 最終順位 .....	38
5.5.12.13 追加情報 .....	38
電動飛行 (F5B, F5J) ワールドカップ競技会規則 .....	39
5E.1 一般規則 .....	39
5E.2 ワールドカップ競技会指名手続 .....	39
5E.3 分類 .....	39
FAI権限 .....	41

## 改訂履歴

段落	変更を承認した総会	変更内容の簡潔な説明	変更の組み込み者
F5J 5.5.11.10	2025	モーターが回転を開始したら直ちに模型を発航しなければならない	Sotir Lazarkov F5 S/C 委員長
F5J 5.5.11.12		計時開始をモーターON時点とした	
F5K 5.5.10		最大飛行時間は4分00秒	
F5K 5.5.10.3		AMRTはすべての風条件に対し、高度60 mおよびモーター時間7秒に固定	
F5K 5.5.10.6		タッチ・アンド・ランディングの場合の明確化	
F5K 5.5.10.11		段落e)を削除	
F5K 5.5.10.11		F5Kの附属書	
F5L 5.5.12.3.1		j) 最小翼面荷重は制限しない	
F5L 5.5.12.3.2		削除: 模型下面にはいかなる突起もあってはならない	

段落	変更を承認した総会	変更内容の簡潔な説明	変更の組み込み者
5.5.11.3	2024	欠落していた段落 f)	Ron Miasnikov 技術書記
5.5.4.3 - 5.5.4.8		体裁修正 - 誤った番号付けを修正	

段落	変更を承認した総会	変更内容の簡潔な説明	変更の組み込み者
F5	2023	<b>F5 - 第5.5.1.3にソーラーセルを含めた</b>	Tyson Dodd 技術書記
F5J		第5.5.11.8.3 フライトグループを削除 第5.5.11.11 フライトを削除	
F5K		F5K全体 - 第5.5.10を置換	
		前倒し実施 - 2022年6月1日発効	
F5J - 5.5.11.1.3(iii)		0点の切り捨て	

## 参考のための4年間のローリング改訂

段落	変更を承認した総会	変更内容の簡潔な説明	変更の組み込み者
F5B	2022	前倒し実施 - 2022年6月1日発効	Tyson Dodd 技術書記
5.5.4.1 j)		許可される電子システムを含むよう定義を変更	

F5J		前倒し実施 - 2022年6月1日発効	
5.5.11.12 n)		負の得点の可能性をなくすため、得点規定（小段落 n）に明確化を追加。採点プログラムの更新が必要。	
F5L		新しい暫定クラス	

**2021年総会では変更なし**

段落	変更を承認した総会	変更内容の簡潔な説明	変更の組み込み者
F5 一般規則			
5.5.2.1 a)		公式飛行の定義を削除し、置き換えた	
5.5.1.3, 5.5.1.5 c), 5.5.1.6, 5.5.2.6		F5Dへの参照を削除。	
F5D		クラスはF3パイロンへ移動	
5.5.6		F5Dセクション全体を削除	
F5J			
5.5.11.10 e)		発航後、グライダーが3秒間まっすぐ前方へ飛行しなければならない時間を規定	
F5K（新クラス）	2020	電動モーターおよび高度計／モーター作動タイマー（AMRT）付きマルチタスク競技用サーマル滞空グライダー	Kevin Dodd 技術書記 および Emil Giezendanner F5 S/C 委員長
5.5.10		このクラスの新規則	
附属書 5E		電動飛行ワールドカップ競技会規則	
5E.2.1		F5BおよびF5Jのワールドカップ競技会を毎年開催	
5E.2.4		ワールドカップ・コーディネーターを導入	
		ワールドカップ競技会が20を超える場合に算入する競技会数を増加	
		2を超えるタイムゾーンを有する国の場合に算入する競技会数を増加	
		新しいポイント表を導入	
		ジュニアおよび女子の別分類の可能性を導入	

段落	変更を承認した総会	変更内容の簡潔な説明	変更の組み込み者
----	-----------	------------	----------

表紙 目次 全体	2019	ボリュームを変更し、表紙および結果としてボリュームの他のすべての部分のクラス一覧を更新。クラス一覧からF5Dを削除したが、2020年6月まではF5D規則を保持。F5Kを削除。	Kevin Dodd 技術書記 および Emil Giezendanner F5 S-C 委員長
F5A		F5A - 電動GPSモーターグライダー	
5.5.3		新たな暫定クラス, F5A - 電動GPSモーターグライダーとその規則	
F5E	2019		
5.5.7		クラス名称を改訂し、規則を全面改訂	
F5J			
5.5.11.1.1		F5一般規則5.5.1.3 d)に対するF5Jの例外に関する明確化	
5.5.11.1.3		ワールドカップおよびオープン国際競技会でモーター再始動の可能性を認める追加規則	
5.5.11.6		リフライト規則の明確化	
5.5.11.8.1		ジュニアパイロットのためのチーム保護規則を追加	
5.5.11.10		前倒し実施 - 2019年5月15日発効 / 発航に関する安全規則の改正	
5.5.11.11		着陸方向設定においてコンテスト・ディレクターにより大きな柔軟性を与える着陸規則の追加	
5.5.11.12		用語を 'rounded down' ではなく 'truncated' に変更	
F5K		クラスが削除された	

## この巻のルール凍結

CIAM一般規則A.10.2の段落を参照：

すべてのクラスにおいて、模型航空機／宇宙模型の仕様、演技スケジュールおよび競技規則の変更を行わない2年ルールは厳格に適用される。選手権クラスについては、各カテゴリーの世界選手権の年に変更を提案することができる。

選手権のない公式クラスについては、2年サイクルは総会がそのクラスの公式資格を承認した年に始まる。公式クラスについては、2年サイクルの2年目に変更を提案することができる。

これはボリュームF5において次を意味する：

- F5Jの変更は、次回は2027年総会で合意され、2028年1月から適用することができる；
- F5Bの変更は、次回は2026年総会で合意され、2027年1月から適用することができる；
- 暫定クラスはこの制限の対象とならない。

2年ルール凍結で認められる唯一の例外は、真正かつ緊急の安全事項、不可欠な規則の明確化、および騒音に関する裁定である。

# ボリューム F5

## 第5部 - 無線操縦競技会の技術規則

### 5.5 カテゴリーF5 - 電動モーターグライダー

#### 5.5.1 一般規則

##### 5.5.1.1 電動モーターグライダーの定義

飛行中に固定されたままの面（制御翼面を除く）に作用する空気力によって（ヘリコプターの場合は回転する面によって）揚力を発生し、地上の操縦者により無線操縦で制御され、機動を行う模型航空機。電動モーター用の動力パックは、地上で固定的に接続または空中の他の模型航空機に接続されてはならない。飛行中に太陽電池によって動力パックを再充電することは認められる。

##### 5.5.1.2 模型航空機の製作者

F5において、競技者がその模型の製作者であることは要求されない。CIAM一般規則C.5.1.2を参照。

##### 5.5.1.3 F5 RC電動モーターグライダーの一般特性

最大総面積	150 dm <sup>2</sup>
最大重量	5 kg
翼面荷重	12 から 75 g/dm <sup>2</sup>

- 動力源は、ソーラーセル（または二次電池）を含むいかなる種類の充電可能な電池で構成してよい。無負荷最大電圧は42ボルトを超えてはならない。電圧を測定する場合、これはパイロットの準備時間が開始される時点で行うものとする。測定後、パイロットには5.5.2.4に従い5分間の準備時間が与えられる。
- F5B、F5EおよびF5Jにおける電池仕様は、それぞれのクラスの特別規則に記載される。
- 重量軽減などを目的とする個々のセルの機械的または化学的改造は認められない。ただし、個々のセルの絶縁スリーブの変更は認められる。
- 認められる電子システムは次のとおりである：
  - 拡張安定化システム。
  - 上昇中に使用されるエネルギーを制限するシステム。
- 禁止される電子システムは次のとおりである：
  - 自律または事前プログラム飛行。
  - GPSまたは類似の位置決定システム、またはウェイポイントナビゲーション。

さらなる例外は各クラスの個別規則に記載される。

##### 5.5.1.4 エネルギーリミッター／ロガー

エネルギーリミッター／ロガーは、電池とモーターの間の電気回路内に配置される。リミッターの場合、遮断は定義された時間持続しなければならない。ロガーデータは飛行直後に取得されなければならない。競技主催者は、記録データを地上へ送信する「リアルタイム無線テレメトリーロガー」を供給してもよい。エネルギーデータおよびモーター運転データはパイロットが利用できるようにしなければならない。

##### 5.5.1.5 リミッターおよびロガー検査の手順

リミッターおよびロガーは、EDIC（ELECTRONIC DEVICES IN COMPETITIONS WORKING GROUP）によって承認されなければならない。

- リミッターおよびロガー検査の一般手順は、CIAM一般規則のC.12『模型検査』に従う。

- b) 主催者は、リミッター／ロガーがRX、LiPoパックおよびESCに正しく接続されているかを確認する。RXケーブルまたは電流センサー上にいかなる種類の「ジャンパー」も存在してはならない。
- c) リミッター／ロガーの故障:
  - 主催者が支給したリミッター／ロガーの場合、競技者にはリフライトが与えられる。
  - 競技者のリミッター／ロガーの場合、F5B/Fでは100点のペナルティを与えなければならない。

これら二つのシステムのうち、競技会では一方のみを使用することができる。主催者はどちらのシステムを使用するか決定し、招待状に明確に記載しなければならない。

### 5.5.1.6 模型航空機の数

競技者は2機の模型航空機を使用することができる。F5Jでは3機を使用できる。競技者は競技会中、この模型航空機間で部品を組み合わせてもよい。ただし、結果として得られる模型航空機が規則に適合し、かつその部品が競技開始前に検査されていることを条件とする。

### 5.5.1.7 競技者およびヘルパー

各競技者は自己の無線装置を自ら操作しなければならない。各競技者には2名のヘルパーおよびそのチームマネージャーが認められる。

## 5.5.2 競技規則

### 5.5.2.1 公式飛行の定義

- a) 公式飛行は、模型航空機が競技者またはそのヘルパーによって放されたときに開始する。パイロットは、次の場合に限り飛行を繰り返すことができる：
  - 主催者により確認された外部妨害のため、競技者が飛行を行えない場合。
  - 競技者の管理の及ばない理由により得点がなされなかった場合、その飛行は、コンテスト・ディレクターが決定する別の時点において再度行うことができる。

### 5.5.2.2 飛行の取消しおよび失格

これらの飛行は無効とされる：

- a) パイロットがFAI規則に適合しない模型航空機を使用した場合。競技委員長の判断により、意図的または重大な規則違反の場合、競技者は失格となることがある。
- b) 模型航空機が飛行時間中にいずれかの部品を失った場合。着陸中（地面または他の障害物との接触）、他の模型との衝突により飛行中に部品を失った場合は考慮しない。
- c) 模型航空機が同一競技会ですでに他の競技者により使用されていた場合。
- d) パイロットが2名を超えるヘルパーを使用した場合。
- e) 模型航空機のいずれの部分も、着陸地点から100メートル以内で停止し、そのまま停止状態を保たない場合。動力付きグライダーについては、この規則は滞空および着陸タスクが開始した後のみ適用される。
- f) 動力付きグライダーについて、滞空および着陸タスクが開始されておらず、かつ、着陸がセキュリティラインの指定された飛行側で、かつそのラインとベースAまたはBとの交点から100 m以内の場所で行われなければならない場合。
- g) 競技者の申告に反して、模型航空機がモーター用動力源として許可された数を超えるセルを搭載していた場合、または電圧が42ボルトを超える場合。
- h) 模型航空機が競技者以外の者によって操縦された場合、競技者は失格となる。
- i) 着陸操作中に模型航空機が競技者またはそのヘルパーのいずれかに触れた場合、着陸点は与えられない。
- j) エネルギー制限の規則違反が発生した場合、そのラウンドの結果は破棄される。

### 5.5.2.3 競技会の運営

送信機および周波数管理については、CIAM一般規則C.16.2を参照。

担当役員は、5.5.2.4に従い、競技者の準備時間開始時にのみ送信機を競技者へ交付する。

#### **5.5.2.4 スタートの運営**

競技者は、可能な限り多くの飛行を同時に行えるよう、使用される無線周波数に従ってグループに編成されなければならない。グループ分けは、可能な限り、同一の国またはチームの操縦者が同一グループ内に入らないように編成される。異なるグループの飛行順序も、使用される周波数に従って定められる。競技者には、スタートに呼び出される前に5分間の準備時間が与えられる。

#### **5.5.2.5 エネルギーリミッターの処理**

競技会の主催者は、エネルギーリミッター処理のための電源設備を提供しなければならない。競技者は、競技会前および競技会中に自身のリミッターを確認する能力を有していなければならない。

#### **5.5.2.6 審判**

主催者は、公式CIAM審判員名簿から選出された、少なくとも3名の異なる国籍の審判員による審判団を任命しなければならない。

注: これらの一般規則および競技規則は、F5クラス: マルチタスクグライダー (5.5.4.) に適用される。

## 5.5.11. クラス F5J – RC電動サーマル滞空グライダー

### 高度計／モーター作動タイマー（AMRT）を備えた電動モーター付きサーマル滞空グライダー

注： 高度計／モーター作動タイマー（AMRT）の仕様およびガイダンスに関する文書については、Sporting Code ボリューム EDIC – Electronic Devices in Competition、Section 1 「Technical Specifications & Guidance」を参照すること。

#### 目的：

電動の無線操縦サーマル滞空グライダーを飛行させる競技者のために、マン・オン・マン形式の競技を実施すること。競技では複数の予選ラウンドを飛行する。各予選ラウンドにおいて、競技者はグループに分けられる。各グループは指定された作業時間内で飛行し、各グループにおける競技者の得点は、競技中の天候条件の変化にかかわらず意味のある得点となるよう正規化される。次いで、予選ラウンドにおける合計得点上位の競技者が、単一グループとして最低二（2）回、最大四（4）回のフライオフ・ラウンドを飛行し、最終順位を決定する。フライオフ・ラウンドの正確な回数は、イベント開始前に主催者によって発表される。

#### 5.5.11.1. 一般規則

##### 5.5.11.1.1. 電動モーター付き無線操縦グライダーの定義

発航の目的のみに推進力を与えるための電動モーターを装備し、かつ揚力が固定されたままの面（制御翼面を除く）に作用する空気力によって発生する模型航空機。幾何形状または面積が可変の模型航空機は、面が最大展開状態および最小展開状態にあるときに、本仕様に適合しなければならない。模型航空機は、地上の競技者によって無線操縦で制御されなければならない。幾何形状または面積のいかなる変化も、無線操縦により遠隔で作動されなければならない。機上センサーを用いて、いずれかの制御翼面を作動させるいかなる機上装置も禁止される。F5 一般規則 5.5.1.3.e で認められている安定化システムは禁止される。

##### 5.5.11.1.2. 模型航空機の事前製作

競技者が模型の製作者であることは要求されない。CIAM General Rules の C.5.1.2. を参照すること。

##### 5.5.11.1.3. 電動モーターおよび高度計／モーター作動タイマー（AMRT）付き無線操縦グライダーの特性

- a)
 

最大表面積	150 dm <sup>2</sup>
最大飛行質量	5 kg
最大翼幅	4 m
翼面荷重	12 から 75 g/dm <sup>2</sup>
バッテリーの種類	任意の種類 of 充電式電池
モーターの種類	任意の種類を使用できる
- b) 国際基準に適合しないスペクトラム拡散技術を使用しない無線機器は、50 MHz未満では10 KHz間隔、50 MHzを超える場合には20 KHz間隔で、他の機器と同時に運用できなければならない。無線機がこの要件を満たさない場合、実効帯域幅（最大50 KHz）は競技者が明示しなければならない。
- c) 連続するラウンド間でスタート順のランダム性を確保するため、スペクトラム拡散技術機器を使用しない競技者は、最低10 KHzの間隔を持つ三つの異なる送信周波数を登録しなければならない。主催者は、飛行マトリクスを設定するために、これら三つの周波数のいずれかを使用する権利を有する。競技者にこれら三つの周波数のうち一つが割り当てられた後は、リフライトの場合を除き、予選ラウンド全体を通じて他の周波数に変更してはならない。リフライトの場合、当該リフライトについてのみ、これら三つの周波数のいずれかの使用を求められることがある。ただし、その通知はリフライト開始の少なくとも30分前までに、書面により競技者（該当する場合はチームマネージャー）に対して行われなければならない。競技者がスペクトラム拡散技術システムを使用する場合、この(c)項の内容は適用されない。
- d) 模型航空機から競技者への情報伝送のためのいかなる装置も禁止される。競技者が操作する送信機へ情報を返送するスペクトラム拡散技術受信機は、送信される情報が模型航空機の安全運用のためのもののみに限られる場合には、「模型航空機から競技者への情報伝送のための装置」とはみなされない。すなわち、受信信号強度および受信機バッテリー電圧は認められるが、位置情報または高度情報は認められない。

- e) 競技者は、競技において三（3）機以下の模型航空機を使用できる。競技者は競技会中、この模型航空機間で部品を組み合わせてもよい。ただし、結果として得られる模型航空機が規則に適合し、かつその部品が競技開始前に検査されていることを条件とする。
- f) すべてのバラストは機体内部に搭載し、機体内に確実に固定しなければならない。
- g) 模型航空機の下面には、着陸時に地上で模型航空機の減速を引き起こすような突起物または制動装置（例：ボルト、のこ歯状の突起など）を備えてはならない。折りたたみ式プロペラまたは尾部（フィンを含む）は、突起物または制動装置とはみなされない。
- h) 各模型には、F5J Altimeter/Motor Run Timer Technical Documentation に公表された技術仕様に従った承認済みAMRTを装備しなければならない。  
AMRTの本質的機能は次のとおりである。
  - i) モーター始動の瞬間からモーター停止後10秒までの間における地表基準に対する到達最大高度（スタート高度）を記録し表示すること。
  - ii) 競技者によるモーターの運転を、30秒を超えない単一の連続運転に制限すること。
  - iii) 飛行中のいかなる時点であってもモーターが再始動された場合、表示されているスタート高度を「---」にリセットすること。この場合（スタート高度表示が「---」、当該飛行の結果は0となり、この0の結果は総得点から捨てることができる。  
この規則は、FAIワールドカップおよびオープン・国際イベントにおいてローカルルールとして使用することができるが、カテゴリー1イベントでは使用してはならない。
- i) 競技者の模型へのAMRTの搭載は、Technical Guidance Documentation に詳細に示された要件に従って行わなければならない。
- j) 関連する表示装置を含むAMRTの適正な作動、および模型に搭載された他の操縦機器との適合性については、各競技者の責任とする。
- k) 初期技術検査を容易にするため、すべてのAMRTは適合確認のために容易に取り外せなければならない。受信機のコマンド信号とAMRTとの接続は、競技中のいかなる時点でも、主催者が分岐Yリードを介して監視用AMRTを取り付けることができるよう、容易にアクセスできなければならない。得点計算に必要なデータを計時員が記録できるように、表示部または差し込み式表示器用コネクタには容易にアクセスできなければならない。AMRTを受信機および／またはESC（Electronic Speed Controller）から取り外したり、模型から取り外したりする必要があってはならない。表示器接続のために追加延長ケーブルを使用することは認められる。誤接続によってAMRTまたは表示器が損傷しないようにすることは、競技者の責任である。
- l) 承認済みAMRT以外で、模型の内部または外部に搭載され、模型の電動駆動モーターの作動を全体的または部分的に独立して制御可能にするいかなる装置も禁止される。受信機およびESCはこの規則の対象外とする。

#### 5.5.11.2. 競技者およびヘルパー

- a) 競技者は、自ら無線機器を操作しなければならない。
- b) 各競技者には一名のヘルパーを認める。世界選手権および大陸選手権において、チームマネージャーまたはアシスタント・チームマネージャーが認められる場合、これらの者は競技者のヘルパーとなることができる。
- c) 競技者、ヘルパーまたはチームマネージャーによる、競技会場における通信機器（トランシーバーおよび電話を含む）のいかなる使用も認められない。

#### 5.5.11.3. 飛行場

- a) 競技は、規定のレイアウトを収容できる十分な広さを有し、かつスロープおよびウェーブ滑空の可能性を最小化する、概ね平坦な地形の飛行場で実施しなければならない。
- b) 発航／着陸スポットから100メートル以内に、発航および着陸の飛行方向を妨げるような著しい障害物があってはならない。

- c) 飛行場には、グループ内の各競技者につき、明確に標示された一つの発航／着陸スポットを設けなければならない。発航／着陸スポットは横風方向に配置し、その最小間隔は十（10）メートルとする。
- d) 飛行場にはまた、明確に標示された幅六（6）メートルのアクセスコリドーを設けなければならない。このアクセスコリドーは風上側に配置し、その最も近い縁は発航／着陸スポットから少なくとも十五（15）メートル離れていなければならない。（注：弱風または風向変動が予想される場合、CDは後の代替使用のため、風下側に追加の発航／着陸スポットを設けることを選択できる。）アクセスコリドーは、最初および最後の発航／着陸スポットをそれぞれ十（10）メートル超えて延びていなければならない。
- e) アクセスコリドーは、競技者、ヘルパーおよびチームマネージャーが発航／着陸スポットへの往来に使用する飛行場上の区域を定義し、また競技運営に関係する他の人々の移動のための定義された区域を提供するために設けられる。不要な障害物がない状態を維持しなければならない。
- f) 競技者またはそのヘルパーは、簡易なテープ式風向指示器を一つ使用できる。テープの寸法は最大20 mm × 2 m、取付棒は直径最大10 mm、長さ最大1 mとする。これ以外の指示器、試験器（温度、気圧、風試験等のためのものを含む）であって、受動式または能動式のもの問わず、競技エリア（スタート、着陸およびセーフティコリドー）内で使用することは認められない。爆発式指示器は認められない。

#### 5.5.11.4. 安全規則

- a) 安全規則への違反が一件あるごとに、下記のとおり、競技者の最終得点から減点する。ペナルティは、その違反が発生したラウンドのスコアシートに記載しなければならない。
- b) コンテスト・ディレクターは、セーフティ・エリアを定義しなければならない。これにはアクセスコリドーおよびその他の飛行制限区域（すなわち、キャンプ場、建物、道路などの上空の低空飛行）を含む。
- c) CDによって定義されたセーフティ・エリアへのいかなる侵入も -300点。
- d) 模型航空機のいかなる部分もアクセスコリドー内に着地または停止してはならない -300点。
- e) 模型航空機はアクセスコリドー内のいかなる人にも接触してはならない -1000点。  
（上昇気流の中ですでに旋回を確立している模型航空機に加わるいかなる模型航空機も、元の模型航空機と同じ旋回方向を維持することが推奨される。）

#### 5.5.11.5. 競技飛行

- a) 競技を有効とするためには、最低四つの予選ラウンドを飛行しなければならない。
- b) 競技者には、各飛行について一回のみの試行が認められる。
- c) 競技者またはそのヘルパーがモーターを作動させた状態で模型航空機をリリースしたとき、試行が成立する。
- d) すべての試行は計時員によって計時されなければならない。時間が記録されていない場合、競技者は5.5.11.6 項に定める優先順位に従ってリフライトの権利を有する。

#### 5.5.11.6. リフライト

- a) 競技者は、次の場合にリフライトの権利を有する。
  - i) 発航中の自己の模型が、発航中の他の模型と衝突した場合。
  - ii) 飛行中の自己の模型が、飛行中の他の模型と衝突した場合。
  - iii) ヘルパーまたは競技者が、着陸前の合理的な時間内に模型の位置について計時員に知らせていたことを条件として、その試行が計時員により判定されなかった場合。これが行われていない場合、その試行が計時員により判定されなかったとしても、競技者はリフライトの権利を有しない。
  - iv) その試行が、自己の管理外、予期せぬ事象によって妨げられた、または中止された場合。
- b) リフライトを請求するためには、競技者は、計時員が妨害条件を記録したことを確認し、かつ当該事象後できるだけ速やかに自己の模型を着陸させなければならない。  
競技者が、妨害条件が飛行に影響を与えた後も発航または飛行を継続した場合、その競技者は新たな作業時間を受ける権利を放棄したものとみなされる。
- c) 作業時間は、次の優先順位に従って競技者に与えられる。
  - i) 不完全なグループ、または追加の発航／着陸スポットを用いた完全なグループにおいて。または
  - ii) 最低六（6）名のリフライト者から成る新たなグループにおいて。この新たなリフライト者グループは、無作為抽選で選ばれた他の競技者をもって構成することができる。抽選された競技者の周

波数またはチーム所属が適合しない場合、または当該競技者が飛行しない場合は、抽選をやり直す。または

- iii) これが実現できない場合は、進行中のラウンドの終了時に、元のグループとともに進行する。
- iv) 優先順位 ii) および iii) の場合、リフライトを割り当てられた競技者については、リフライトの結果が公式得点となる。他の競技者については、進行中ラウンドの得点とリフライトの得点のいずれか高い方が公式得点となる。

このグループに属する競技者であって、新たな試行が割り当てられた競技者本人ではない者は、リフライト中に妨害があった場合でも、さらに別の作業時間を受ける権利を有しない。

### 5.5.11.7. 飛行の取消しおよび／または失格

次の場合、その飛行は取り消され、ゼロ点として記録される。

- a) 競技者が、規則5.5.11.1のいずれかの項目に適合しない模型航空機を使用した場合。
- b) 他の模型航空機との空中衝突の結果として生じた場合を除き、模型航空機が発航中または飛行中にそのいずれかの部分を失った場合。ただし、着陸中（地面との接触時）に模型航空機のいずれかの部分を失った場合は、これを考慮しない。
- c) 模型航空機が、競技者以外の者によって操縦された場合。
- d) 着陸中、模型航空機の機首が、競技者に割り当てられた着陸スポットの中心から75メートル以内に静止しない場合。
- e) AMRTがいかなるスタート高度データも記録しない場合。

コンテスト・ディレクターの判断において、故意または重大な規則違反、もしくは危険な飛行があった場合、競技者は失格とされる。

### 5.5.11.8. 飛行の運営

#### 5.5.11.8.1. ラウンドおよびグループ

- a) 当初の予選ラウンドにおける飛行順序は、可能な限り多くの同時飛行を可能にするため、使用される送信周波数に従って編成しなければならない。各グループには最低六（6）名の競技者を予定すべきである。
- b) 飛行順序は、グループに細分されたラウンドとして編成しなければならない。
- c) フライオフの場合を除き、グループの構成は、いずれの競技者も同じ相手と何度も対戦する状況を最小化するものでなければならない。世界選手権および大陸選手権においては、フライオフを除きチーム保護が義務である。オープン・国際イベントおよびワールドカップイベントでは、チーム保護は認められない。ジュニア・パイロットの利益のため、コンテスト・ディレクターは、そのヘルパーが競技会登録において指定され、かつ当該ヘルパーがパイロットとしても競技に参加している場合、ジュニア・パイロットおよびその指定ヘルパーに対してチーム保護を与えるものとする。

（注：実際には、特に少数の競技会でこのような状況が生じるが、その発生は最小限にとどめるべきである。）

- d) 競技運営に要する時間を最小化するため、スタート順序は、各ラウンド当たりのグループ数を最少とし、かつ各グループの競技者数を可能な限り最大とするよう編成すべきである。

（注：しかしながら、小規模な競技会では、2×9よりも3×6の方がより実用的である場合がある。リフライトのためのスペースを確保するため、各ラウンドの最後に、空きスタート位置のあるグループを配置することが推奨される。）

#### 5.5.11.8.2. グループ飛行

- a) グループの作業時間開始前に、競技者は五（5）分間の準備時間が与えられる。この間に、競技者は割り当てられた発航／着陸スポットに位置し、模型の飛行準備をする。準備時間は、前グループの作業時間終了前に開始してはならない。
- b) グループ内の各競技者に与えられる作業時間は、正確に十（10）分間とする。
- c) 主催者は、グループの作業時間の開始を、音響信号により明確かつ曖昧さなく表示しなければならない。詳細は5.5.11.14.1を参照。
- e) グループの作業時間のうち八（8）分が経過したとき、音響信号を発しなければならない。加えて、最後の十（10）秒はカウントダウンにより音声で示さなければならない。
- f) グループの作業時間の終了は、開始時と同様に、音響信号により明確に表示しなければならない。

### 5.5.11.9. 送信機の管理

送信機および周波数の管理については、CIAM General Rules の C.16.2 を参照すること。

### 5.5.11.10. 発航

- a) 発航前に、すべてのAMRTは、指定された発航/着陸スポットにおいて地上レベルで初期化し、その初期化を計時員が確認しなければならない。
- b) 発航の一般方向はコンテスト・ディレクターが定めなければならない。すべての発航は、無風または弱い変動風の条件であっても、この一般方向に向けて行わなければならない。この規則に違反した場合、100点のペナルティを適用する。
- c) スタート信号が与えられる前にモーターを作動させてはならない。この規則に違反した場合、100点のペナルティを適用する。
- d) 模型は、アクセスコリドー内で、スタート位置標示（番号）から二（2）メートルを超えない範囲で、アクセスコリドーの発航線の一般方向に向けて発航しなければならない。模型航空機が上記の指定距離内で発航されない場合、その試行は無効となりゼロ点として記録される。
- e) 発航は、モーターを作動させたまま、少なくとも三（3）秒間、まっすぐ前方に行わなければならない。模型はモーターが作動し始めたら直ちに発航しなければならない。これ以外のいかなる発航方法も認められない。この規則に違反した場合、100点のペナルティを適用する。
- f) グループの作業時間開始前に模型航空機が発航された場合、その試行は無効となりゼロ点として記録される。
- g) 計時員は発航を観察するため操縦者の後方に位置しなければならないが、操縦者またはそのヘルパーの妨げとなってはならない。

### 5.5.11.11. 着陸

- a) 競技開始前に、主催者は各ラウンドごとに各競技者へ発航/着陸スポットを割り当てなければならない。着陸のために常に正しいスポットを使用することは競技者の責任である。
- b) 着陸のための最終進入の方向はコンテスト・ディレクターが定めることができる。すべての最終進入は、無風または弱い変動風の条件であっても、この方向で行わなければならない。この規則に違反した場合、100点のペナルティを適用する。  
着陸点間の実際の距離、安全コリドーまでの距離、および卓越風条件を考慮し、コンテスト・ディレクターは着陸方向の選択をパイロットに委ねることができる。
- c) 計時員は着陸を観察するため操縦者の後方に位置しなければならないが、操縦者またはそのヘルパーの妨げとなってはならない。
- d) 計時員、ヘルパーおよび競技者は、隣接スポットにいる他の競技者またはそのヘルパーを妨げてはならない。
- e) 着陸後、競技者は、同グループの他の競技者または模型航空機の妨げとならないことを条件として、自己の作業時間終了前に模型航空機を回収してもよい。

### 5.5.11.12. 得点

- a) 試行は、モーターONの瞬間（電子計時においてはモーターON信号）から、次のいずれかの時点まで計時される。
  - i) 模型航空機が最初に地面に接触した時点。または
  - ii) 模型航空機が最初に地面に接触している何らかの物体に触れた時点。または
  - iii) グループの作業時間が終了した時点。
- b) 飛行時間は秒単位で、最も近い秒へ切り捨てなければならない。
- c) 予選ラウンドでは作業時間内の完全な一秒ごとに一点を与え、最大600点（すなわち最大10分）とする。フライオフ・ラウンドでは最大900点（すなわち最大15分）とする。
- d) 記録されたメートルのスタート高度は、最も近いメートルへ切り捨てなければならない。
- e) 記録されたスタート高度の各メートルにつき、200 mまでは0.5点、これを超える場合は3点を減点する。
- f) 得点が負（ゼロ未満）となる場合、ゼロ点として記録する。なお、そのラウンドに適用されたペナルティ点は引き続き有効とする（5.5.11.4）。

- g) グループの作業時間終了から一（1）分を超えて飛行した場合、ゼロ点を記録する。  
 h) 着陸ボーナスは、主催者が標示した発航／着陸スポットからの距離に応じて、次の表に従い与えられる。

距離 (m)	点数
1まで	50
2	45
3	40
4	35
5	30
6	25
7	20
8	15
9	10
10	5
10超	0

- i) 着陸ボーナス距離は、停止した状態の模型航空機の機首から、競技者に割り当てられた発航／着陸スポットの中心点までを測定する。ボーナス（着陸）点目盛りが付された専用の非伸縮テープを、この距離の測定手段とする。  
 j) 着陸進行中に模型航空機が競技者またはそのヘルパー（または、存在する場合はチームマネージャー）、あるいは意図的に配置されたあらゆる障害物に触れた場合、着陸ボーナスはゼロとしなければならない。  
 k) 模型航空機がグループの作業時間終了を超えて飛行した場合、着陸ボーナスは与えられない。  
 l) 飛行点、着陸ボーナス点の合計から発航高度減点を差し引いた点数の合計が最も高い競技者を、そのグループの勝者とし、そのグループの補正得点1000点を与える。  
 m) 当該グループ内の残りの競技者には、補正前（すなわち当該グループについて正規化される前）のグループ勝者の総得点に対するその割合に基づく補正得点を与えられ、各自の総得点から以下のとおり算出される。

$$\text{競技者自身の得点} \times 1000$$


---

補正前の当該グループで記録された最高総得点

- n) ペナルティは、その違反が発生したラウンドのスコアシートに記載しなければならない。すべてのペナルティは累積し、予選ラウンド終了時に競技者の総得点から減点される。予選ラウンドで科されたペナルティは、フライオフ・ラウンドには持ち越されない。ペナルティ減点後の総得点が負となる場合、ゼロ（0）点を記録する。個人順位およびチーム順位には同じ総得点を使用する。

### 5.5.11.13. 最終順位

- a) もし四（4）回以下の予選ラウンドが実施された場合、競技者の合計得点は、実施された全ラウンドの得点の合計とする。四（4）回を超えるラウンドが実施された場合は、合計得点を決定する前に最低得点を一つ捨てる。  
 b) CDはフライオフを行わないことを選択できる。この決定は招待状または競技開始前に発表される。  
 c) 予選ラウンドの終了時点で、合計得点が最も高い競技者達のうち30%（切り捨て）が、フライオフラウンドのために、最低六（6）名、最大十四（14）名から成る単一のグループに配置される。運営上の理由により、CDはより低い最大数を設定することができる。  
 d) 最低三（3）回、または最大四（4）回のフライオフ・ラウンドを実施すべきである。例外的に、悪天候または視界不良の場合には、CDは二（2）回まで減らすことができる。

- e) フライオフ・ラウンドの作業時間は十五（15）分間とする。音響信号はグループの作業時間開始時、正確に十三（13）分経過時、および正確に十五（15）分経過時に発しなければならない。加えて、最後の十（10）秒はカウントダウンにより音声で示さなければならない。
- f) フライオフ・ラウンドの得点は、セクション5.5.11.12に従う。
- g) フライオフ進出競技者の最終順位は、フライオフ・ラウンドにおける合計得点によって決定する。予選ラウンドの得点は破棄される。
- h) 当該イベントにおいて、二名以上の競技者のフライオフ合計得点が同一である場合、それらの競技者の最終順位は、予選ラウンドにおける各自の順位によって決定する。上位に位置した競技者に、より高い最終順位を与える。
- i) ナショナルチーム順位は、選手権終了後、チーム三名の予選ラウンド合計得点を加算して決定する。ナショナルチームが同点の場合、上位から順に付された順位番号の合計がより低いチームを勝者とする。それでも同じ場合は、最上位の個人順位により決定する。

#### 5.5.11.14. 参考情報

##### 5.5.11.14.1. 運営上の要件

- a) 主催者は、各競技者がグループの作業時間の開始および終了の正確な秒について疑義を持たないようにしなければならない。
- b) 音響信号は、自動車ホーン、ベル、または拡声システム等によって行うことができる。音は風上に向かっては遠くまで届かないことを念頭に置き、音源の配置には配慮しなければならない。
- c) 音響信号は、その意味が明確で曖昧であってはならない。
- d) 公平な競技であるためには、いずれのグループにおいてもフライヤーの最少人数は六（6）名である。競技進行に伴い、さまざまな理由で一部競技者が脱落することがある。五（5）名以下の競技者しかいないグループが生じた場合、主催者は、可能であればそれまでのラウンドで他の者と対戦しておらず、かつ周波数が適合する競技者を後続グループから一名繰り上げるべきである。
- e) 競技開始時点で参加パイロットが30名以下の競技会では、競技開始時点の最少六（6）名ではなく四（4）名以下の競技者しかいないグループが生じた場合、主催者は後続グループから競技者を繰り上げるか、または当該グループを取り消し、それに応じて他のグループを補充すべきである。

##### 5.5.11.14.2. 計時員の責務

主催者は、すべての計時員が、自らの任務の重要性、その責任および飛行場における安全要件を完全に認識していることを確保しなければならない。主催者は、計時員が規則に十分精通していること、特に一部の場合に競技者の競技上の機会を危うくしないため迅速かつ明確な行動を求められる規則に精通していることを確認しなければならない。

計時員は、次の事項を行わなければならない。

- i) AMRTの初期化を確認すること。
- ii) 発航、飛行および着陸を観察し、規則違反を記録すること。
- iii) 飛行時間を計時し記録すること。
- iv) 着陸ボーナス距離を測定し記録すること。
- v) AMRTからスタート高度を確認し記録すること。
- vi) 操縦者またはそのヘルパーの妨げとならず、また隣接スポットの者の妨げともならないこと

## 5.5.12 クラス F5L – 電動モーターおよびAMRTを備えたRES無線操縦サーマルグライダー（暫定）

### 5.5.12.1 一般規則

F5Lは、電動モーターおよびロガーを備え、無線操縦で2軸を制御するグライダーのクラスである。

F5LクラスはF3Lに類似しており、開始手順のみが、バンジーの代わりに電動モーターを使用する点で異なる。

模型は最大二（2）メートルの翼幅を有し、主として木製構造であり、ラダー、エレベーターおよびスポイラーによって制御される。発航のため、電動モーターは30秒作動することができる。構造および装備に関する制限により、低コストかつ平均的な技能で競技に参加することが可能である。

このクラスの重要な側面の一つは、若いモデラーに刺激を与え、彼らをこのスポーツに取り込むことである。以下の規則は、この点を念頭に理解し、解釈されなければならない。

### 5.5.12.2 無線操縦グライダーの定義

固定された面に作用する空気力によって揚力を発生する模型航空機。F5Lクラスにおいて、電動モーターは発航のためにのみ用いられる。

競技者は地上から無線操縦により模型を操縦しなければならない。

### 5.5.12.3 無線操縦サーマルグライダー F5L の模型仕様

模型は通常、主翼、胴体および尾翼から構成される。胴体およびラダーまたは垂直安定板、あるいはこれらのいずれも持たない全翼模型も、操縦面が二（2）面のみである場合には認められる。これら各面は一つのサーボのみによって作動されなければならない。それ以外については、本規則に記載された従来型模型の構造規則を適用する。

#### 5.5.12.3.1 模型は主として木製部品により製作される

次の方法が認められる。

- a) リブ構造、開放または木材で被覆されたもの、“D-box”、無垢材の主翼、または無垢材とリブの組合せである主翼。
- b) 主翼の前縁、スパー、主翼の接続部品およびモーターマウントフレームを除き、すべての部品は木材で製作されなければならない。
- c) 主翼表面は、フィルム、シルク、紙またはポリエステル布で被覆してもよい。  
a)からc)の仕様は尾翼にも適用される。
- d) スポイラー後縁から後縁までの間隔は、少なくとも5 cmなければならない。スポイラーの作動には一つまたは二つのサーボを用いてよい。
- e) 胴体は全面的に木材で作られなければならない。ただし、ガラス繊維／カーボン（GRP／CFRP）、ケブラー製チューブまたはプロファイルによるテールブームは認められる。チューブ／プロファイルは主翼面積の前半部を超えて延長してはならない。
- f) 胴体の木製表面は、ガラス繊維／カーボン（GRP／CFRP）またはケブラーで被覆してもよいが、その面積は総面積の最大3分の1を超えてはならない。表面はワニスまたは c) に記載された方法で保護してもよい。
- g) ヒンジおよびコントロールロッドは、GRP／CFRP 制限の適用除外とする。
- h) 電動モーターの選択は自由である。
- i) バッテリーの選択は自由である。
- i) 最低翼面荷重には制限を設けない。

#### 5.5.12.3.2 使用が認められないもの

- a) 胴体もしくは主翼の製作、または表面処理のためのオス型またはメス型の使用。
- b) 着陸時に地上で模型の減速を図る固定式または引込式の制動装置（ボルト、のこ歯状突起等）。
- c) 半径5 mm未満の胴体ノーズ。
- d) 機体内部に搭載されず、かつ機体内に確実に固定されていないバラスト。

- e) 無線信号強度、受信機温度およびバッテリー電圧を除く、いかなるテレメトリー。バリオメーターは認められない。
- f) 競技者とヘルパーの間のいかなる通信も認められない。これには携帯電話およびトランシーバーを含む。

#### 5.5.12.4 競技会の説明

- a) 競技では少なくとも四（4）回の予選ラウンドを実施しなければならない。各予選ラウンドについて、参加者は飛行グループに分けられる。各飛行グループの結果は、飛行グループ間で比較可能な得点にするため正規化される。各飛行グループ内の最高得点には1000点を与え、同グループ内の残りの得点は、各参加者の生飛行得点を同グループ内の最高生飛行得点に対する比率に応じて配分する。「フライオフ」のグループサイズは予選ラウンドと同一とする。予選ラウンドにおいて正規化合計得点が最も高い参加者達は、「フライオフ」（最低2ラウンド）に進み、最終順位を決定する。
- b) 競技者は競技において三（3）機の模型を使用することができる。競技者はいつでも模型を変更できるが、同一ラウンド内では、最初に使用した模型が割り当てられた着陸スポットから半径15メートル以内に置かれている場合に限る。
- c) 競技者は最大二（2）名のヘルパーを使用できる。ヘルパーは、発航および模型の回収、天候条件および飛行時間の通知、ならびにスタート管理を補助する。
- d) 主催者は公式得点員／計時員を配置すべきである。これができない場合は、パイロットのヘルパーが計時し、主催者は飛行時間を定期的に抽出検査する。参加者に有利となる三（3）秒を超える誤差は、ゼロ点の飛行としなければならない。

#### 5.5.12.5 飛行場

- a) 競技は、スロープおよびウェーブ滑空の可能性を最小化する、概ね平坦な地形の飛行場で実施しなければならない。
- b) 各競技者のために少なくとも八（8）メートル離れた標示付きスタート／着陸スポットを設けなければならない。離陸は、割り当てられたスタート／着陸点から二（2）メートル以内で行わなければならない。この規則は再スタート時にも適用する。
- c) 胴体の機首と着地点の距離は、テープまたはひもを用いて測定する。そのテープまたはひもは、着地点に固定されていてもよい。
- d) コンテスト・ディレクターは着陸境界を定めるものとする。境界外への着陸は、その飛行をゼロ点とする。（8.2も参照）

#### 5.5.12.6 中断

- a) コンテスト・ディレクターは競技を中断し、スタート／着陸点を再設定することができる。
- b) 模型にとって気象条件がもはや妥当でない場合、コンテスト・ディレクターは競技を中断しなければならない。

#### 5.5.12.7 発航

スタートは作業時間開始後に、電動モーターを作動させた状態で行う。

設計上、モーター作動状態で安全にスタートできない機体（例：主翼搭載機で後部モーター搭載）については、発航後できるだけ速やかにモーターをオンとし、時間はモーターがオンになった時点から開始する。

モーター作動時間（30秒）およびスタート高度（90 m）は、EDIC承認済み e-logger（例：Altis V4、Altis V4+、Altis Micro、Altis Nano 等）によって制限される。主催者は競技前にAMRTの設定を確認すべきである。主催者は飛行後のいかなる時点でもAMRTを確認することができる。設定が事前設定値と異なる場合、その飛行はゼロ点として記録される。

AMRTの要件：

- a) 時間および高度による停止。
- b) 競技飛行中のテレメトリーなし。
- c) 送信機を介した設定値の変更なし。

- d) 電動モーターのオンおよびオフの時点（高度および時間）を含む（最後の）飛行の記録。
- e) 飛行後に確認可能であること。

### 5.5.12.8 競技飛行

- a) 競技者は少なくとも四（4）回の公式飛行を行う権利を有する。
- b) 競技者は作業時間中、無制限の試行を行う権利を有する。

再スタート前には、AMRTを手動でリセットしなければならない。送信機によるリセットは認められない。

- c) 公式試行は、電動モーターを作動させた状態で、競技者またはそのヘルパーの手から模型が離れた時点で開始する。
- d) 複数回の試行がある場合、最後の飛行の結果を公式得点とする。

### 5.5.12.9 リフライト

次の場合、競技者は新たな作業時間の権利を有する。

- a) 自己の模型が飛行中または発航中に、飛行中または発航中の他の模型と衝突した場合。
- b) 自己の飛行が、自己の管理の及ばない事象により妨げられた、または中止された場合。

上記条件を考慮してリフライトを請求するためには、競技者は、公式計時員が妨害条件に気付いていることを確認し、かつその事象後できるだけ速やかに自己の模型を着陸させなければならない。

競技者が、自己の飛行に影響を与える妨害条件の後も発航または飛行を継続した場合、または妨害条件を解消した後に再発航した場合、その競技者は新たな作業時間を受ける権利を放棄したものとみなされる。

### 5.5.12.10 着陸

- a) 各競技者には各飛行前にスタート／着陸スポットが割り当てられる。正しく割り当てられた着陸スポットを使用する責任は競技者にある。
- b) 着陸進行中、着陸スポットから10メートル以内には、パイロットおよびそのアシスタントのみ立ち入ることが許される。他のヘルパーおよび計時員は距離を保たなければならない。
- c) 着陸後、競技者は、そのグループの他の競技者または模型航空機の妨げとならないことを条件として、作業時間終了前に模型航空機を回収してもよい。このように回収された模型は、作業時間中に再発航することができず。着陸採点前に触れられた模型については、着陸得点は記録されない。

### 5.5.12.11 得点

各ラウンドの生飛行得点は、飛行時間得点と着陸ボーナス点によって構成される。

#### 5.5.12.11.1 飛行時間の採点

試行は、スターター装置の手からのリリースの時点から、次のいずれかに至るまで計時される。

- a) 模型航空機が最初に地面に接触した時点。
- b) グループの作業時間が終了した時点。

最大飛行時間は、九（9）分（540秒）の作業時間内で六分三十秒（390秒）である。飛行時間は完全な秒で記録する。飛行が六分三十秒（390秒）より長い場合、超過飛行時間を六分三十秒（390秒）から減算する。飛行時間の各秒について二（2）点を与える。各飛行グループ内の最高得点には1000点を与え、同グループ内の残りの得点は、各参加者の生飛行得点を同グループ内の最高生飛行得点に対する比率に応じて配分する。

### 5.5.12.11.2 着陸の採点

着陸ボーナスは、主催者が標示した着陸スポットからの距離に応じて、次の表に従い与えられる。

着地点からの距離 (mまで)	点数	着地点からの距離 (mまで)	点数
0.2	100	5	80
0.4	99	6	75
0.6	98	7	70
0.8	97	8	65
1.0	96	9	60
1.2	95	10	55
1.4	94	11	50
1.6	93	12	45
1.8	92	13	40
2.0	91	14	35
3.0	90	15	30
4.0	85	15超	0

次の場合、競技者の着陸点はゼロ点として記録される。

- a) 模型がいずれかの部品を失った場合。
- b) 模型がグループの作業時間を超えて飛行した場合。
- c) 着陸中に模型が競技者またはヘルパーに触れた場合。
- d) 公式得点員が距離測定を行う前に、競技者またはヘルパーが模型に触れた場合。

次の場合、タスク全体（飛行および着陸）は**ゼロ点**とする。

- a) 模型が、主催者が定義した着陸区域の外で停止した場合。作業時間内であれば、競技者は別の試行のため発航することができる。
- b) 模型が作業時間を30秒を超えて飛行した場合。

### 5.5.12.12 最終順位

五（5）回以下の予選ラウンドが実施された場合、競技者の合計得点は実施された全ラウンドの得点合計とする。五（5）回を超えるラウンドが実施された場合、合計得点を決定する前に競技者の最低得点は一つ捨てられる。

フライオフに進出した競技者については、最終順位はフライオフにおける順位により決定する。その他の競技者については、予選ラウンドにおける順位により決定する。

### 5.5.12.13 追加情報

ブリテン情報には、予想される空域制限の変更を記載する。

## 附属書 5E

### 電動飛行 (F5B、F5J) ワールドカップイベントの規則

#### 5E.1. 一般規則

- 5E.1.1. 責任およびワールドカップの運営に関する主要事項をすべて含むFAIワールドカップの一般規則は、FAI Sporting Code、ボリューム CIAM General Rules C.2. に記載されている。
- 5E.1.2. F5サブコミッティによりワールドカップ競技会として指名され得るオープン・国際競技会は、FAI Sporting Code、ボリューム CIAM General Rules セクション C.2.2. に記載されている。

#### 5E.2. ワールドカップ競技会指名手続

- 5E.2.1 電動飛行ワールドカップは、F5B (マルチタスク・グライダー) および F5J (サーマル滞空グライダー) のクラスにおいて毎年開催される。
- 5E.2.2. ワールドカップ競技会として予定されているオープン・国際競技会の申請は、FAI国際スポーツカレンダーに掲載される前に、サブコミッティ委員長によって確認されなければならない。
- 5E.2.3. Sporting Calendar に掲載されていない競技会は、ワールドカップ競技会とすることはできない。
- 5E.2.4. ワールドカップ・コーディネーターは各競技会の結果を収集し、ワールドカップ順位を作成し配布する。
- 5E.2.5. ワールドカップは、CIAM総会において、勝者または各NACの代表者に授与される。

#### 5E.3. 分類

- 5E.3.1. 一年間のワールドカップ競技会が二十 (20) 回以下の場合、最大三 (3) 回の競技会を算入する。一年間のワールドカップ競技会が二十 (20) 回を超える場合、最大四 (4) 回の競技会を算入する。競技者が三回 (または四回) を超えて飛行した場合、その最良の三回 (または四回) の結果を採用する。
- 5E.3.2. 同一国において算入できる競技会は一 (1) 回を超えてはならない。二つを超えるタイムゾーンを有する国の場合、二 (2) 競技会を算入することができる。
- 5E.3.3. ワールドカップ競技会で付与されるポイント  
**注：次頁の表を参照。**
- 5E.3.4. ジュニアおよび女子  
ワールドカップ順位にそのような競技者が10名を超えて掲載される場合、ジュニアおよび女子について別個の分類を設ける。メダルおよびディプロマは CGR C.2.2.3. に従って授与される。



## FAI AUTHORITY

この競技会は、CIAMにより承認され、FAIにより有効化されたFAI Sporting Code の General Section および Section 4 の規則、ならびに本規則に従い、FAIが付与する権限の下で実施される。すべての参加者は、競技会へ登録することにより、本規則およびFAI規則に拘束力があるものとして受諾する。

FAI - Fédération Aéronautique Internationale

Avenue de Rhodanie 54

CH-1007 Lausanne

Switzerland

Tel: +41 21 345 10 70

Fax: +41 21 345 10 77

[www.fai.org](http://www.fai.org)

[info@fai.org](mailto:info@fai.org)